



とこなめ陶の森 資料館 企画展

# 大野谷の縄文時代

～大野谷で生きた人の生業を考える～



ギャラリートーク  
12/16(土)14:00～15:00

絵：山下勝年



石瀨貝塚出土の土器 (約4500年前)

## ◎とこなめ陶の森 縄文歴史講座◎

12月3、10、17日 (毎日曜日) 10:00～12:00

会場：資料館 2階 講座室 参加費：無料

- 1回目：「縄文土器と海産物から生業を考える」  
講師：増子康真さん (名古屋考古学会)
- 2回目：「遺跡の立地から知多半島の縄文人の生業を考える」  
講師：西野順二さん (知多古文化研究会)  
「石器から大野谷の生業を考える」  
講師：小栗康寛 (とこなめ陶の森)
- 3回目：「知多と渥美の貝塚と縄文人の一生」  
講師：坂野俊哉さん (知多古文化研究会渥美支部)  
「谷川徹三著『縄文的原型と弥生的原型』を読み解く」  
講師：小栗康寛 (とこなめ陶の森)

### 開催期間

2017年 11/18(土) ～ 2018年 2/25(日)

9:00～17:00 / 休館日：月曜日 (月曜日が祝日の場合は火曜日)  
常滑市瀬木町4丁目203番地 ☎0569-34-5290

特別協力：好生・知多古文化研究会

ホームページ <http://www.tokoname-toumomori.jp/>

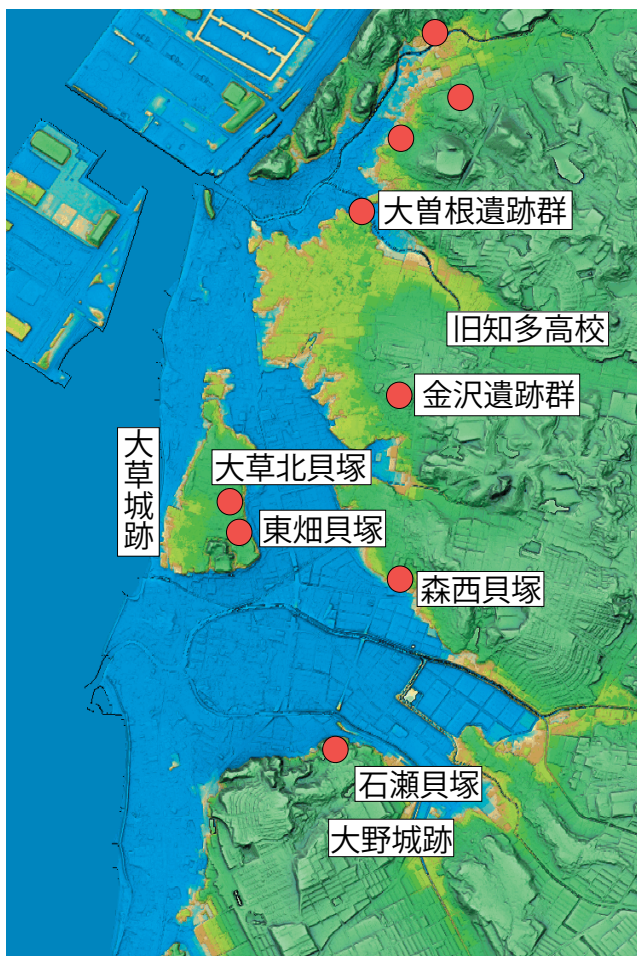




平成29年度 第4回企画展 (11月18日(土)～2月25日(日))

# 大野谷の縄文時代

## ～大野谷で生きた人の生業を考える～



### はじめに

大野谷は常滑市の北部、知多市の南部、阿久比町の西部にまたがる場所に位置しています。左図は現在の海水面を数メートル上昇させた地図です。濃い青色は現在の海水面で、薄い青色まで海水面が広がります。つまり、貝塚が営まれた縄文時代の頃は大草城の周辺が島状に、あるいは大野谷が入り江状となる環境が想像され、海に近接した立地であったことが判っています。つまり、大野谷で暮らした縄文人は海とともに生きた人々であったといえるでしょう。彼らは少しずつ大野谷周辺を移動しながら、約5000年もの長きにわたって人々が生活していました。

### 貝塚時代以前の大野谷

大野谷には貝塚が形成される以前にも、人が生活した遺物が発見されています。元知多高等学校の周辺には石鏃が1000点以上も採集されている金沢遺跡群があります。石鏃は弓矢の矢の先に付けられた石の道具で、シカやイノシシ

などの獣類を狩るために使われました。石鏃の石材は地元で入手できるチャートの他に岐阜県湯ヶ峰で産出する下呂石、奈良県二上山で産出するサヌカイトなど多岐にわたっています。残念ながら、時代を判断するための縄文土器は少ないのですが、石鏃の形から縄文時代の前期から晩期まで継続した遺跡と考えられます。地元の研究者によって丹念に採集された石器の中には、旧石器時代の約2万年前につくられたナイフ形石器、約1万2000年前の縄文時代草創期と呼ばれる時代の有舌尖頭器も含まれていることがわかりました。このことから金沢遺跡群は貝塚が形成される以前は狩りを行う場所であったものが、貝塚が形成される頃になると、石鏃を製作する遺跡になったものと考えられます。

### 貝塚時代の大野谷

大野谷に貝塚が形成された最初の遺跡は知多市大草北貝塚です。遺跡は大草台地の東側の傾斜地に立地しています。標高は10メートル程度で、海水面が上昇した当時は離れ小島のような場所です。目印は大草城ですが、今からは想像のできない景観であったと考えられます。

縄文時代前期後半になると、大草北貝塚から人の痕跡がなくなり、知多市森西貝塚で人が生活するようになります。森西貝塚は標高7メートルに位置し、多くの縄文土器とともに石鏃、おもりに使われた石錘などが発見されています。

縄文時代中期になると、大草北貝塚、森西貝塚の他に常滑市石瀬貝塚の3遺跡に人が生活するようになり、矢田川周辺に遺跡が点在するようになります。なかでも土器の豊富な遺跡が石瀬貝塚で、縄文時代中期後半に位置します。標高は大草北貝塚と同じで約10メートルあり、ハイガイやアサリの貝とともに長野県で産出する黒曜石の石鏃が多くみられます。他にも縄文人のお墓が発見されています。

縄文時代後期になると、何故かこれらの遺跡が衰退します。再び人が生活するようになるのは縄文時代晩期の初頭です。知多市東畑貝塚は縄文時代晩期の初頭から中葉の遺跡で大草北貝塚の南に位置します。東畑貝塚からは、南方の貝として知られるオオツタノハで作られた貝輪、祭祀に使われたと考えられる石刀、大型の魚を釣るための釣り針など特殊な道具も発見されています。

### 貝塚とはなにか

貝塚は教科書でよく縄文人の「ゴミ捨て場」と書かれていますが本当にそうなのでしょうか。たしかに貝塚は縄文人の食べた貝殻が何百年も堆積しています。今回の展示品は貝殻の層からも出土したものもたくさんあります。これらは壊れた土器や石器、貝殻、動物の骨なども出土しますが、今日でも貴重なヒスイの玉や装飾品、そして石瀬貝塚ではヒトの墓も見つかっています。一方で、東三河の渥美半島では縄文時代晩期を中心に大貝塚が形成され、数百体の縄文人が埋葬され、祭祀がおこなわれた痕跡を知ることができます。つまり、縄文時代の貝塚は「ゴミ捨て場」ではなく、モノを送る（供養する）マツリの間であったと解釈されるようになってきました。

### 大野谷に生きた縄文人の生業

大野谷の生業を考え上で、伊勢湾は重要な存在です。貝塚の調査では貝殻や魚骨が発見される程度で海洋資源は明らかとなっていませんが、我々は今日でも魚介類の他に海藻類などを食しています。そしてただ食べるだけではなく、長期保存に向く食糧もつくることができます。おそらく大野谷の生業の一つに海産物の保存食生産があり、遠方の食材や黒曜石などの貴重な素材を入手するための交易品であったと考えられます。

最後に常滑市の名誉市民である谷川徹三先生が著した『縄文的原型と弥生的原型』より、縄文時代の芸術について記述があるのでご紹介します。

人間の中にはまだどこかに野性の獣がいるように、一民族の心情の中にも、遙かに遠い先史時代の生活の中で形成せられたものが潜在し、それが文化の深層をなしているのです、それはその後の日本の芸術の中にも、或いは形をなすものとして、或いは形をなさぬものとして生き続けているのであります。

言葉で表現することは難しいですが、縄文土器はとても古いやきものにも関わらず、斬新な表現や我々の心を掴む躍動感、縄を使った美しい文様、物語を連想させるような表現まであります。みなさんも一片の土器の中からは是非、自分の気に入った文様を見つけてみてください。

(とこなめ陶の森)





ナイフ形石器（左）有下尖頭器（右）



金沢遺跡群の石鏃（縄文時代）



森西貝塚出土土器（縄文時代前期）



石瀬貝塚出土土器（縄文時代中期）



東畑貝塚出土土器（縄文時代晩期）



東畑貝塚出土の根挟み（縄文時代晩期）



東畑貝塚出土の獣骨（縄文時代晩期）



知多半島の海産物